

白石市もふるさとまつりに参加

白石市との交流



▲開会式で挨拶をする風間白石市長



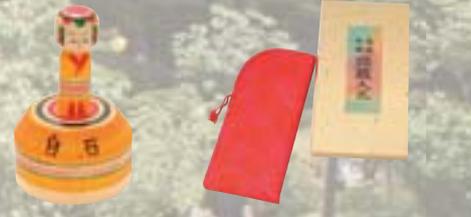
▲こけしの絵付け体験



▲白石市物産コーナー



▲ふるさとまつりに参加してくれた白石市のみなさん



▲白石市の物産、こけしの印鑑と眼鏡ケース

ふるさと、白石

いま、私たちが住んでいる白石区は、明治4年、現在の宮城県白石市にあたる仙台藩白石領の人々が海を渡って移住したのが始まりです。

白石という地名も白石を開墾した人々のふるさとから名づけられました。

白石区のふるさとともいえる宮城県白石市とは、「こけしコンクール」や「中学生の主張発表会」などさまざまな交流を行っています。

交流30周年を迎えた今年は、開拓の歴史を子どもたちに伝承しようと白石の開拓に尽力した佐藤孝郷の顕彰碑を白石小学校校庭の「白石の森」に建立し、7月16日に除幕式が行われました。

「除幕式」と「ふるさとまつり」には、宮城県の風間康静白石市長をはじめ多くの白石市の皆さんが駆けつけてくれました。



21歳のときに600人もの人々を率いて白石に入植した佐藤孝郷は、いまの白石小の前身となる善俗堂という学問所を開き、白石の将来を担う子ども達のため教育に力を注ぎました。



▲白石小の児童、卒業生のみなさんも一緒に記念撮影

白石の開拓者

佐藤孝郷顕彰碑除幕式